

# 25<sup>th</sup> International Congress on Glass (ICG2019) 参加報告

長岡技術科学大学 物質材料工学専攻

本間 剛

## Report on 25<sup>th</sup> International Congress on Glass (ICG2019)

**Tsuyoshi Honma**

*Department of Materials Science and Technology, Nagaoka University of Technology*

第25回国際ガラス会議 (International Congress on glass ICG2019) が2019年6月9日 (日) から6月14日 (金) の6日間、米国ボストンの Boston Park Plaza Hotel にて開催された。時折、小雨になる日はあったものの、日本に比べて涼しく過ごしやすい陽気であった。会場となった Boston Park Plaza Hotel はボストンの中心地にある歴史的なホテルで、公共庭園が近くにある。国際空港から地下鉄が通じており、もちろん会場近くにも駅があり非常に便利であった。ちなみに著者らは郊外のブルックラインに位置するややリーズナブルなホテルに宿をとったが、乗り換えなしに地下鉄で会場まで行けたのでとても満足している。会場まで行く途中にはボストンレッドソックスの本拠地である Fenway Park もある。

参加報告には興味を引いた講演を紹介するのが一般的かもしれない。本誌の読者の多くは ICG について説明することはもはや必要ないかもしれないが、是非とも学生および若手研究者の皆さんにはこの会議の面白さを知ってもらい、興味を持っていただきたいので解説させていただきます。ICG と略したが、これには国際ガラス委員会 (International Commission on Glass) と国際ガラス会議 (International Congress on Glass) の2つを略して使っている。今回の Congress の主催は国際ガラス委員会である。

Congress は3年に1度の頻度で開催され、Congress が開催されない年は Annual Meeting が開催される仕組みになっており、昨年は横浜で Annual Meeting が開催されたのは記憶に新しいところである。今回の Congress は米国セラミックス学会 (The American Ceramic Society) の Glass & Optical Materials Division (GOMD) がホストを務めたが、GOMD の設立100周年を記念している。会期中はそれぞれの

受賞記念講演が行われ、大変充実したプログラムであった。

6月9日は Technical Committee (TC) のミーティングが開催された。一般の講演も目的であるが、ICG では TC による活動も重要である。TC は基礎科学、応用、ガラス製造技術、そして教育に関する分野に細分化されており、それぞれのメンバーが課題を持ち寄り、情報交換、会議の開催、書籍の執筆など様々な活動を行っている。日本からも数多く参画している。詳しくは以下の URL を参照いただきたい。

[http://www.icglass.org/home/technical\\_committees/](http://www.icglass.org/home/technical_committees/)

著者は TC07 の結晶化およびガラスセラミックスを担当している。2時間の限られた時間ではあったが、2020年に TC07 が主催する結晶化の国際シンポジウム Crystallization 2020 の開催、Glass-Ceramic Technology, 3rd Edition (ISBN: 978-1-119-42369-0) の出版など最近の研究動向について情報交換することができた。話題は尽きず、後日、会場近くの Legal Sea Foods にてディナーと相成った。

10日の午前はオープニングのイベントが開催され、ICG から若手研究者とした Gottardi 賞と Weyl 賞の授賞式および受賞講演が行われた。ランチセミナーの形式で、GOMD 設立 100 周年を記念した受賞講演が開催された。10日の午後からは通常のセッション形式の口頭発表が行われた。10日はこの他にウェルカムレセプションが開催された。レセプションに先立って Women in Science Reception (写真参照) では A. Duran ICG 会長の強い思いと情熱を感じることができた。レセプションと同時にポスターセッションも行われた。

そういえば3年前、上海での ICG 参加報告も著者が執筆したことを思い出した。あの時は随分キャンセルが目立ったのを憶えている。今回の ICG ではそんなにキャンセルは多くなかったが、著者が参加した Battery application のセ



Women in Science Reception の様子



ポスターセッションの様子

ッションでの出来事を紹介したい。キャンセルが発生してしまったので、セッションチェアの S. Martin 先生 (米国, Iowa State Univ.) と Y. Yue 先生 (デンマーク, Aalborg Univ.) が自己紹介を始め、その時間はセッション参加者の自己紹介の時間となった。私はありきたりな紹介をしてしまったのだが、特にポスドクや博士課程の学生は熱心に自らをアピールしていた。こういった機会でも人脈が形成されるのだろうと、両先生の粋な計らいに対していたく感動した。著者も活用させてもらおうと考えている。

最後に次回の開催について紹介する。第 26 回 Congress は 2022 年にドイツ・ベルリンで開催されるが、来年 2020 年はポーランドで Annual Meeting が開催される。著者が初めて参加した ICG はエジンバラで開催された 2001 からである。あの時の感動は今でも忘れられないし、多くのガラス研究者と意見交換できることはとても楽しみである。